

な感じではあるが、アイデアとしては今後巾広く展開できそうである。

- 椎材の高度利用化については、小径木の場合そのほとんどが薪として利用されているが、樹皮の剝肌が綺麗であるので、磨き肌を利用した床柱を主体とした建築材と、小物への利用を試みたもので、本年度は材の乾燥の都合もあって、小物の試作にとどまった。樹皮の剝離については伐採の時期が大きく影

響するので併せて研究する。

- 外材利用については、材質的にも又美感、肌ざわりの点でも優れた材もあるので、大いに活用すべきである。本年度の試作品はローズウッドと桑、けやきを併用したコースターであるが、もっと巾広く考えてみたい。

試作品は展示会等でも好評であった。

単位構成材による室内調度品の試作

末吉光男 飯田正毅

〔目的〕

古来日本人は針葉樹の柾目の自然の美しさを生活環境の中にとり入れ、日本独自のすぐれた生活の場を作ってきた。この研究においては、その心情を基として、建具の技法を導入して、細木の構成自体から生れる美的価値を高めると共に品質の高級化を図ることを目的とした。

〔概要〕

上記の目的により 飾棚2種 壁掛2種 花器2種

の試作を行った。

飾棚…塩地材の帆立構造 裏板に和紙ばりの建具をはめ込んだ、組子構成による障子の裏板は、前面におく品物をよく反映して効果的である。

色紙掛…米繪の細木による最も簡易な構成、固定式のもの、筆巻き式の二通りを作成

花器…小角材の積重式による構成 内部に陶器等を入れて 花器として使用、目的によっては、別の用途にも使用出来そうである。

木工旋削加工による試作研究

製品の試作 (1)

末吉光男 楠畑裕也

〔目的〕

旋削加工に必要なブロック材として集成材を利用することによって、それにとりあつた諸問題を解決する。

〔概要〕

- 1-1 加工のポイント集成材の利用によって、材料の確保と歩留りの増大、製品の均質化、強度の安定、割れやそりなどの狂いの防止が容易になる。加工技術の面からはバイトの調整、治具の工夫によって、ソリッド材と差異なく仕上げられる。なお接着剤にはニカワを使用した。

1-2 設計のポイント

木材は旋盤で加工すると美しい木目を呈する。樹木の生い立ちに関わるすべてを挽き肌に見せてくる。木材のこの美しさをそのまま製品に結ぶものがクロ製品であろう。このことを念頭において、用途からくる大きさを決定し、更に木材の手になじむ感触を考慮して形を決めた。

- 2 試作製品：1) おつまみいれ 2) キャンデーボール2種 3) 木鉢 4) 盆6種 5) 木皿2種 6) 色紙額
- 3 発表：第17回当場展（於鹿児島市）並びに九州クラフト展（於福岡市）にて発表。